



丹後地域 第35号

リハビリ通信

～うさぎのプランコ～

編集/発行

丹後圏地域リハビリテーション支援センター
(公益財団法人 丹後中央病院内)
〒627-8555 京丹後市峰山町杉谷 158-1

TEL 0772-62-8301 FAX 0772-62-8302
e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com
<http://www.tangohp.com/tangoshien.html>

ホームページより PDF 形式でご覧いただくことができます

看護職・介護職リハビリテーション ステップアップ研修会 開催報告

今年度からベーシックコースでは 1 日の研修を 2 日開催しています

日時：令和元年 11 月 25 日（月）開催

時間：10 時 00 分～17 時 00 分

会場：公益財団法人 丹後中央病院 ふたばホール

講師：中島 紀夫 氏（公益財団法人丹後中央病院 言語聴覚士）

～ 摂食嚥下 ～

岡野 光朗 氏（京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ 理学療法士）

～ 移 乗 ～

参加者：20 名

参加者の方が職場で実践でき、かつ
他の方にもレクチャーできるように
実技を多く取り入れました。

日時：令和元年 11 月 29 日（金）開催

時間：10 時 00 分～17 時 00 分

会場：宮津市福祉・教育総合プラザ 第一コミュニティルーム

講師：小川 雄 氏（介護老人保健施設 リハ・ヴィラなぎさ苑 作業療法士）

～ 福祉用具・環境調整 ～

森垣 達哉 氏（京丹後市立久美浜病院 理学療法士）

～ ポジショニング ～

参加者：21 名



研修会の感想

- ・食事や口腔ケアの楽で正しい姿勢がわかった
- ・とろみ剤のかたさがどれくらいが良いのか見て理解できた
- ・移乗補助具について使用方法など知ることができた
- ・実技の種類が多く良い経験になった
- ・体重移動のポイント等、分かりやすい説明であった
- ・福祉用具の選ぶポイントを知ることができた
- ・体験して利用者さんの気持ちがわかった
- ・実習で、体圧の変化や良い姿勢を体験できてよかった

第3回事例検討会「在宅看取りとリハビリテーション」 開催報告

日 時：令和元年10月23日（水）

時 間：14時00分～16時30分

会 場：宮津市福祉・教育総合プラザ 第一コミュニティルーム

情 報 提 供：平井 映子 氏（天の橋立訪問看護ステーション 理学療法士）

木俣 裕行 氏（訪問看護ステーションいすず 理学療法士）

コメンテーター：神内 昭次 氏（訪問看護ステーションいすず 理学療法士）

参加者：32名

訪問リハビリテーションの中での在宅支援におけるリハビリテーション専門職の関わりについての実践報告をして頂きました。

その後、在宅看取り支援に関わるスタッフとリハ専門職が、協働していくための課題や、対象者の生活が満足したものとなるためには、現状の資源を活用してどのように協働するのか、リハ専門職に関わるメリットについて話し合い発表しました。

**情報提供のまとめ**

病態の変化に伴い身体機能・ADL・介護状況が変化し、これらの変化に合わせて、もしくは予測しながら、支援内容を考慮し、提案・助言・実施していきます。支援内容は機能訓練だけではなく住宅の環境調整やベッド・ベッド周囲の環境、ポジショニングや介助の方法、福祉用具導入の時期の検討や自助具の工夫、意思伝達の方法についても検討支援をおこなっています。

本人・家人の身体的苦痛・精神的苦痛をできるだけ緩和・軽減し、本人・家人の意思を尊重した生活ができるように、継続して支援していく必要があります。

研修会アンケートより

- ・看取り期のリハビリもできることもたくさんあるという事に気づけました
- ・本人のQOL向上、家族介護負担軽減を考えた時、リハの視点が必要な時活用したい
- ・予防から終末期まで様々な場面でリハ職の助言をもらうことができる
- ・機能訓練、ADL維持に限らず、呼吸、ポジショニング等でも訪問の依頼をしていきたい
- ・機能評価、福祉用具相談、看取りケアなどの相談をしていきたい

第4回事例検討会「在宅支援におけるリハビリテーションの活用」開催報告

日 時：令和元年12月19日（木）

時 間：13時30分～15時00分

会 場：京丹後市峰山総合福祉センター 2階 コミュニティーホール

情報提供：山元顕太 氏（京都府北部リハビリテーション支援センター 理学療法士）

志水美智也氏（丹後圏域地域リハビリテーション支援センター 理学療法士）

実践報告：田中祥子氏（京丹後市立弥栄病院 訪問看護ステーションふれあい 作業療法士）

参加者：65名

京丹後市の地域ケア推進会議と合同開催しました。

京都府北部における訪問リハビリテーションに関するケアマネ調査結果と丹後圏域地域リハビリテーション支援センターでのリハビリ相談・訪問指導についての報告と訪問リハビリテーションの事例報告をして頂きました。

その後、地域のリハビリテーションの現状や課題について話し合い発表しました。

**情報提供のまとめ**

病院内リハビリと訪問リハビリの違いとして病院内では‘疾患治療’が最優先され院内ルールの中での生活となり一般的な動作方法の練習が中心となります。訪問リハビリでは‘ご本人の生活スタイル’が大事で普段の生活の中に合わせた動作練習が可能となります。また、訪問リハビリは機能訓練だけでなく病態に合わせた環境調整や福祉用具の使用練習、日常生活物品の自助具の作成や練習、趣味活動の自助具の作成や練習なども行っています。在宅生活の中へリハビリ専門職が関わることでより個別性の高い‘ご本人の生活スタイル’への支援につながると考えられます。

研修会アンケートより

- ・訪問リハの対象者について今日の話しで視野を広げる事ができた
- ・在宅での生活が少しでも良くなるようにアドバイスを受けたり情報交換したりしている
- ・食事、嚥下困難な方への援助方法を教えて欲しい
- ・丹後地域のリハビリの実態が把握できた。事例やグループワークを通して訪問リハビリが身近に捉えられるようになった

地域リハビリテーション丹後圏域連絡会 開催報告

日 時：令和2年2月26日（木）

時 間：13時30分～15時30分

会 場：公益財団法人 丹後中央病院 ふたばホール

管内の地域リハビリテーション関係者など24名の方にご参加頂き、圏域連絡会を開催しました。京都府北部リハビリテーション支援センターと丹後圏域地域リハビリテーション支援センターの令和元年度事業についての報告と京都府総合リハビリテーション連携指針の策定についての報告をしました。

障害分野においては、様々な障害の方がおられ、どのようにリハビリを活用して残存能力を活かし、生活や仕事を組み合わせて、生きる力を支援するかを考えていく必要がある。障害施設や介護保健施設等においては、サービスの質の向上のためには生活リハの視点を持ち、専門職の活用により職場のPDCAサイクルをしっかりと回すことが必要です。また、リハ専門職の活用により利用者の健康維持が、安定した施設運営にも繋がる。さらに支援の中核を担うケアマネとリハ専門職の連携、居宅介護事業所の役割も重要であるなど現状や今後の課題について協議を行いました。

今後の方針として「丹後圏域地域リハビリテーション連携指針」の見直しを行うために作業部会を設置して検討することになりました。

令和元年度 事業報告

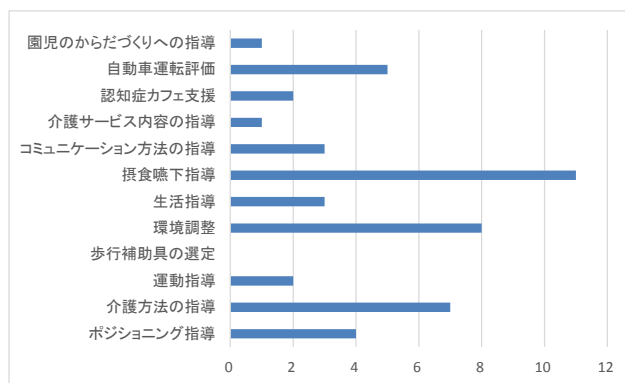
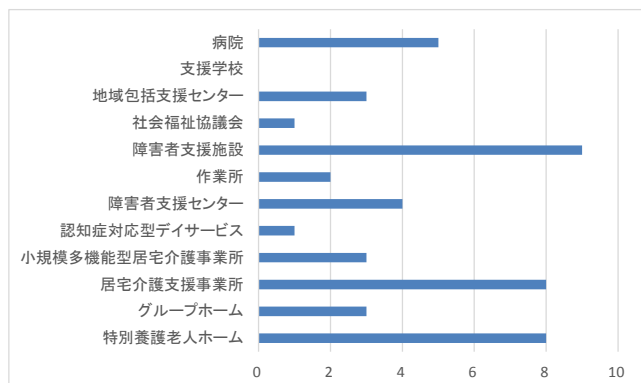
R2.3.30 現在

訪問相談事業

47件

依頼施設

相談内容



地域包括支援センター等に対する助言・相談

44件

各市町の地域ケア会議やケアマネ会議等に参加し、現状の把握、また、リハビリテーション支援センターの事業やリハビリについての啓発を行いました。

●広報誌 うさぎのブランコ

情報提供

33号（6月）34号（10月）35号（3月）

●ホームページの更新

